

調査期間 2011年9月16日～継続中
所在地 伊勢原市子易地内
時代 近世、中世、縄文、旧石器
調査原因 中日本高速道路株式会社による
新東名高速道路建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査
遺跡位置 鈴川右岸段丘上・丹沢山地南東縁
に位置する。



主な調査成果

平成27年度は10区東、10区西の2地点で縄文時代の調査を実施しており、中期の集落や後期の配石遺構群など、多数の遺構を発見しました。鈴川右岸の最も高い段丘面に立地する10区東で発見された配石遺構群は、縄文後期中葉から終末頃につくられたもので、配石遺構を構成する大形礫には遺跡眼下の鈴川から運び込んだ河原石が用いられているようです。大形礫が環状・馬蹄形に配されたものや長方形に配された石棺状のもの、複数の礫を組み合わせた組石状をなすものや立石を有するものなど、様々な形態の配石遺構が確認されています。おそらくは、お墓（墓域）もしくは何らかのおまつり事を行った場であったのでしょう。



10区西・10区東縄文面全景



10区東配石遺構群



石棺状をなす配石遺構（南西から）



蓋状に配された大型礫を伴う配石遺構（北から）